



磐城時報

五十町屋結町平縣島福
行發業料編
成弘田岡 人 刷 印
社報時城磐 上同所行發

新 年 號

謹 賀 新 年

迎 年 の 辞

歳曆の改る毎に、吾等は新曙光新天地を迎へたとして、慶祝するを常とする。

舊きを捨て、新しきを悦ぶは人の情である。然しながら新年の祝福さるゝのは、唯それだけの爲めではない。歳華の更新を機として、吾等の生活を、物質的にも精神的にも更改進展せんことを期待し、前途に光明を認むる悦びを、吾等は自ら慶祝するに外ならぬのである。

然らば則ち、吾等は吾等の生活更新に、此機會に於て全努力を傾注せねばならぬ。だが然し吾等のその努力は、果して幾千の程度に酬らるゝを得ることであらうか？ 回顧一番、既往に於ける吾等の悪戦苦闘は如何に甚だしく、如何に惨めで、如何に徒勞であつたことか。國家的にも個人的にも赤字の補填は到底望み得られなかつた。不況は深刻を加ふるのみで、上下共に之れが爲めに苦められ通してあつた。それが改曆の今日、卒然として好轉し得るだらうか。

更に我皇國に生を享けて、共に皇土を踏む我大和民族中に、到底有り得べからざる筈の共產主義の宣傳を計らんとして、或は細胞組織の擴張を策せんとした非國民的實際行動に對して、その抑壓絶滅を期し得る適策が、茲に坤軸一轉の新春を機會として、果して見出され得るだらうか。更に之れを國外に觀る時、吾等は痛憤措く能はざるもの甚だ多きを遺憾とせざるを得ぬ。俯仰天地に耻ぢざる我國際正義に立脚せる主張が、何等正當の根據なき僻見の爲めに、幾度阻まれたか。あゝ、吾等の前途には常に國民的大結束の大決意の必要が愈々益々加はるのみである。

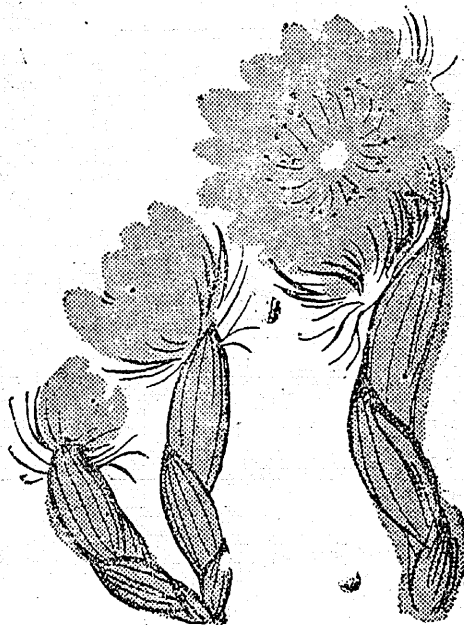
此時に方つて、一陽來復の新天地を迎へた吾等の心境、果して奈何。然し乍ら吾等には、皇紀二千五百九十有二年來、斷じて世界に冠絶し來つた大和民族としての特殊性がある。斷々乎としてこの特殊性を發揮せんか。光明立所に吾等を圍繞して、如何なる難關の突破も蓋し易々たるのみである。

外來する難苦や、内在する窮乏や、これあるに依つて大和民族の偉大さをこそ増せ、吾等の利福をこそ増せ、其處に寸毫だも大和民族の向上發展を阻止し得るものはないのである。

茲に於てか、明朗にして快活なる「曉の雞鳴」に依つて、吾等の前に展開せられた昭和壬申七年の新天地を、滿腔の喜悅を以て祝福することが出来る譯けである。忍苦力行の後に來るものゝ何であるかを思ふ時、心身共に雄躍を禁じ得ぬ吾等である。國難來、何かあらん。新陽和煦として天地新色に包まる今日、吾等先づ全國民と相和して皇國の萬歳を三唱せんかな。

歳旦所懷を陳べて新年の辭に代ふることとする。

磐城時報社同人



昭和七年を迎へた 濱三郡の政界

議會解散説を中心に 候補の話題に上る人々

民政党内閣の關係の重心が搖ぎ味ある問題として噴き出し議論
出し忽ちにして崩壊したその原されてゐる。前回の選挙は昭和
因茶邊に在るかは吾々の關知す五年二月濱口内閣の下に行はれ
る處ではないが、濱口内閣以來。與黨は必ず勝つといふ吾
三年間の民政党内閣の晩年は無國選舉の定石通り
氣力の政府

國民多數から指揮
され勝ちであつた
の事實である。
機運に熟し一朝
にして内閣瓦解し
期れば政友の天
下となつた。

國家非常時に際し
政府が代つたとし
ても俄かに國民の
幸福を豫想する事
が出来ないけれど
も、内閣交迭によ
り民心を或る程度
に一新した事だけ
は事實である。而
して昭和六年は去つた。昭和七
年を迎へて國民の何人もが念頭
におくのは議會解散であらう。



消息通 何人も今議會の
解散を當然過ぎる程當然と豫想
してゐる。而して野心家のうち
には今から立候補の準備行動を
開始したと噂されてゐるものさ
へある。即ち来る二月から三
月にかけて選挙が行はれる事
最早既定の事實であらう。然ら
ば濱三郡に於ける政界はどうか
現在の代議士木村清治氏、比佐
昌平氏、氏家清氏、政友一民政
が政友地盤擁護のため犠牲候補
の比率はどうか變化するか、興
に舉げられたのが敵であつたの

みて無風地帯で當選したわけ
であつたが、今回は相當有力者
の立候補を豫想されてゐるし、又
双、相、方面の政友派が前回の雪
辱の意味で佐藤庄太郎氏を推
すとして佐藤氏には前回落選
といふ同情があるから氏家氏の
再選は困難であらうと言はれて
ゐる。民政黨に於て比佐氏、氏
家氏の外出馬を豫想されてゐる
人に縣會議員野崎滿藏氏がある
野崎氏は將來の代議士を志して
ゐる事は久しい以前から密か
にその機をねらつてゐたが、比
佐氏でさへ今日の大をなすに至
つたまでには數回
落選の憂目を見てゐる例
に鑑み落選を覺悟して断然出馬
するであらうと言はれてゐる。
而も現在の野崎氏は比佐一派の
人々から全く排斥されてゐる事
情が野崎氏の出馬を想像させる
一つの理由である。政友派に於
ては現代代議士木村清治氏の再
起と前回落選した佐藤庄太郎氏
の二氏を石城と相、双二郡から推
さうとするのが最も有力な計劃
で結局こゝに落ちつくであらう
と察せられてゐる。即ち前回
の四候補が再び逐鹿場裡に馳騁
する事となる模様であるが、木
村氏は再起を断念してゐると傳
えてゐる向きもある。

即ち、鈴木辰三郎氏を推
さうしてゐる人々も多しやう
であるが、双葉、相馬から佐藤
庄太郎氏が出馬し、石城から鈴
木辰三郎氏が立候補すれば自然
鈴木氏の不利に陥る事明らかな
ので鈴木氏は固辭するであらう
と見るのが當然であらう。

この外中立候補者として名乗り
をあげるであらうと見られてゐ
る人に双葉郡山田忠正氏がある
同氏も相當の勢力を持つてゐる
から前回以上の得票を得る事明
からであらう。

みで無風地帯で當選したわけ
であつたが、今回は相當有力者
の立候補を豫想されてゐるし、又
双、相、方面の政友派が前回の雪
辱の意味で佐藤庄太郎氏を推
すとして佐藤氏には前回落選
といふ同情があるから氏家氏の
再選は困難であらうと言はれて
ゐる。民政黨に於て比佐氏、氏
家氏の外出馬を豫想されてゐる
人に縣會議員野崎滿藏氏がある
野崎氏は將來の代議士を志して
ゐる事は久しい以前から密か
にその機をねらつてゐたが、比
佐氏でさへ今日の大をなすに至
つたまでには數回
落選の憂目を見てゐる例
に鑑み落選を覺悟して断然出馬
するであらうと言はれてゐる。
而も現在の野崎氏は比佐一派の
人々から全く排斥されてゐる事
情が野崎氏の出馬を想像させる
一つの理由である。政友派に於
ては現代代議士木村清治氏の再
起と前回落選した佐藤庄太郎氏
の二氏を石城と相、双二郡から推
さうとするのが最も有力な計劃
で結局こゝに落ちつくであらう
と察せられてゐる。即ち前回
の四候補が再び逐鹿場裡に馳騁
する事となる模様であるが、木
村氏は再起を断念してゐると傳
えてゐる向きもある。



正月餅

一記者

蓬萊

一名を喰積ともいふ。三方に似
て四面に穴のある臺の四方に白
紙を敷き、裏白、蓬萊を四隅へ
出し、白米を盛り、中央の橙へ
水引で結んだ小松を立て、其
の側に伊勢海老を立てかけ、周
りに馬尾樞、勝栗、野老、轉柿
、蜜柑、梨斗、昆布などを飾つ
たもの。

屠蘇散

白求、梗桔、山椒、防風、肉
桂、大黃、小豆を刻み合せて紅
絹のふくろに入れたもの。

鏡餅

蓬萊の白米を二重の餅に
代へたもの。昔は正月二十日、
後世は正月十一日にこれを庭丁
で切らずに、手で砕いて食べた
ものである。それを鏡餅といふ。
種々のものを入れたといふ。

七草

芹、薺、さみせんぐさ(御形)
は、こごさ(菘)、蘿蔔、大根は
こべ、佛の座(かはらけな又は
田平子)の七種の菜。

左義長

「飾籠」といふ。左繩に繕るの
は、左を清浄とする舊習による
もので、端を切らないのは素直
な心を示すものであるといふ。
(完)

松の内

門松は、昔江戸では正月十四
日まで立て、置いたのであるが
その後七日の朝に取拂ふことに
なり、寛支以後は六日の夕方こ
れを取拂つて、その跡の穴へ松
の小枝を挿して置くやうになつ
たので、今日では正月六日まで
をいふのである。

小豆粥

關西では「餅の粥」といふ
桂、大黃、小豆を刻み合せて紅
絹のふくろに入れたもの。

雑煮

昔は臟腑を保養するものとい
ふので、昆布、打鮑、煎海風、
で切らずに、手で砕いて食べた
ものである。それを鏡餅といふ。
種々のものを入れたといふ。

謹賀新年

相馬郡石神村
電話原町四九番

菓子店 マツモトヤ

電話二一四番

坂本嘉兵衛

岩手縣宮古町

大樂寫眞館

四倉町諏訪神社前

緑樹園

原町東一番丁(電話二二七)

渡邊外科醫院

院主 渡邊

高井製絲場

電話二一四番

志賀良

原町仲町(電話三三三)

土木建築請負業

相馬郡石神村
電話原町四九番

小室吉見

電話二一四番

原町支店

電話七〇

石城郡町村長會

石城郡町村長會

平撞球場

平撞球場

平材木商組業合

平材木商組業合

石城郡小學校長會

石城郡小學校長會

平運輪株式會社

平運輪株式會社

湯本信用無盡株式會社

湯本信用無盡株式會社

平料理屋組合

平料理屋組合

平旅館組合

平旅館組合

平砂糖商同業組合

平砂糖商同業組合

信用組合平庶民金庫

信用組合平庶民金庫

磐城無盡商會

磐城無盡商會

二本松電氣株式會社小名濱支店

二本松電氣株式會社小名濱支店

理髮店 宮川幸吉

理髮店 宮川幸吉

理髮店 大床 石崎幸一

理髮店 大床 石崎幸一

平産婆看護婦學校

平産婆看護婦學校

石城 產科看護婦學校

石城 產科看護婦學校

由良之助

由良之助

平町田町(電話二〇七)

平町田町(電話二〇七)

恭賀新年

<p>平町三丁目 電話三五九 丸はん家具店 丸はん家具製作所 平町新田前 電話一八二</p>	<p>磐城建物株式會社 支配人 井上貞治郎</p>	<p>堀江工業株式會社 社長 江口忠一</p>	<p>工榮商會 平町播磨小路【電話三六一番】 佐々木健一郎</p>	<p>大一屋商店 平町字二丁目 丹野榮三郎</p>	<p>高橋商會 平町字白銀町【電話六三八番】 高橋龜松</p>	<p>マルカ運動具店 平町字田町 電話三二番</p>	<p>多田井質店 債券兩替商 平町大工町【電話五九一番】</p>	<p>磐城水産工業株式會社 社長 小野晋平 支配人 福尾伊太郎</p>
<p>御料理 末廣亭 平町字田町 電話四二一番</p>	<p>加藤營業所 平町字白銀町 加藤丈夫</p>	<p>辯護士 山野邊義政</p>	<p>辯護士 眞木桓</p>	<p>磐城共病濟院 院長 石山謙郎 主管 賀澤忠治</p>	<p>釜屋商店 久</p>	<p>山崎合名會社 舍</p>	<p>聚樂館</p>	<p>小名濱水産株式會社</p>
<p>縣會議員 野崎滿藏</p>	<p>鈴木辰三郎</p>	<p>山崎與三郎</p>	<p>安島重三郎</p>	<p>赤津庄兵衛 石城郡勿來町</p>	<p>豐間大敷網事務所</p>	<p>江名漁業組合</p>	<p>平町藝妓屋組合</p>	<p>株式會社 平魚市場</p>

原町材木商會
眼科、内科、外科
奇方破雲丹
許官調劑所 **壽生堂**
堂主 折久保 節
福浦村女坂

小兒カンの妙藥
消食散 各カケの藥
本舖 **木幡製藥舖**
金房村飯崎

妙見散、妙見膏
諸處方調劑藥局
林藥品商會
小高町 電話五三番

高島式馬耕
機改良農一式
製造販賣所
板倉鐵工場
板倉主
小高町

西洋料理 出前迅速
朝鮮料理
原町太之助町
カニ 文作食堂
電話二二二番

原町、手越、北長野、
深野、小池、小山田、
期 車川、御山、富澤、
町 八幡、清水、中村、
所 橋、車川、橋手、鹿島町
高野自動車部
鹿島町 電話三三番

仙臺、高、出、後、居、計、記
出張所長 **阿部文二**

福浦小學校長
倉澤初次
折笠重雄

原町地盤整理係
阿部利助

助役 紺野數衛
收入役 **小林久助**

助役 佐藤吉光
收入役 **飯塚幾郎**

住職 廣橋連城
大岡山 **醫德寺**
住職 山田智海

九川興業事務所
衆樂園 **布川實**
原町 電話百十六番

住吉屋本店の理想的宴會場

濱三郡の一偉觀

濱三郡にこの旅館ありと言はれざる筈であるが、同宴會場は總ての平町紺屋町住吉屋本店で、建坪二百餘坪、總二階建て階上は昨年七月以來理想的宴會場のは百餘數の大廣間、二百餘名の建築に着手し、爾來百五十餘日、客を收容して余裕がある。階下工費三萬餘圓、使役人員三千七百餘名、その他設備萬端自余名で工事全く竣工した。二合室、化粧室、その他設備萬端日盛大な宴會が振られるのを口全く理想的である。將に地方の開けとして一般宴會の需めに應ずりであらう。

申歳生れの人々

平町に於る申歳生れの名士は極めて少ない。僅か數名を算するのみである。

▲山崎清三氏
明治十七年申歳生れ。山崎合名會社の若主人として實業界の大立物である。事は地方で知らぬ者はない。實業界に重きをなしてゐる外帝國在郷軍人會石城聯合分會長として同方面に献身的の努力を拂つてゐる。

▲飯田近治氏
平町一丁目聚樂館飯田一二三氏の嗣子、明治十七年生れ、全國癩兵の待遇改善する事が刻下の急務であることなし多大の努力を拂つてゐる。

▲鈴木重助氏
平藝妓屋組合長である外實業界、政界方面の大立物である。平町會議員中で申歳生れの人には荒川淺次郎(四十九歳)馬目雅治(三十七歳)の人だけである。

謹賀新年

佐藤巖商店
平町二丁目 (電話三八一八番)

織田商店
平町南町 (電話五三三番)

木幡銃砲店
原町本町二丁目

綿屋吳服店
小高町 (電話七番)

佐藤清四郎商店
原町本町 (電話五七番)

大島鋸工場
大島守治

三井履物店
平町二丁目 (電話一五六番)

大谷時計病院
平町三丁目 (電話一九九番)

カイソネーチヤ療院
平町吉田五平

洋式宴會 コンパル食堂
平町白銀町 (電話六六六番)

芳香園油店
平町田町 (電話六八〇番)

御料理 大貞
平町田町 (電話四二二番)

佐藤三平商店
平町小島 (電話四三〇番)

三井質店
三井自動車部
植田郵便局長 馬上守一

紋店 吉田寅之輔

横山彰介商店
平町三丁目 (電話九四四番)

平電力株式會社
平町前 (電話二九七番)

渡邊貞三
石城郡草野村

豊間大敷網事務所
江名漁業組合

磐城時報社相馬支局

賀正 櫻井忠陸
原町

谷屋吳服店
平新川町 (電話四三七番)

柴田書店
平町四丁目

二葉印刷所
熊謙次郎

野崎自動車部
電話六五九番

鈴木自動車部
平町四軒町 (電話二二七番)

佐々木龍若

田中宣治
平新川町 (電話五六七番)

早川清久
富岡町

たよきや商店
平紺屋町 (電話六七一番)

河田鐵工場
河田梅吉

武藏鐵工場
平町長坂 (電話五二四番)

やなぎや
外六名

謹賀新年

石城郡病院

(同不序順)

大森醫院
平町南町 (電話二五八番)

高久病院
平町田町 (電話五二三番)

鈴木齒科醫院
平町南町 (電話二二二番)

井坂婦人科醫院
平町田町 (電話五五九番)

明雲堂眼科醫院
平町前 (電話六六九番)

實川婦人科醫院
平町田町 (電話二七〇番)

市原醫院
平町田町 (電話一四四番)

織田齒科醫院
平町南町 (電話四一六番)

佐藤齒科醫院
平町四丁目 (電話五〇八番)

志賀齒科醫院
平五丁目

木村外科醫院
平町六丁目 (電話三〇九番)

平醫院
平町五丁目 (電話一九八番)

木村病院
平町新川町 (電話一六七番)

安齋外科醫院
平町田町 (電話四七五番)

原齒科醫院
平町土橋通り (電話三二番)

磐城時報社
加納活版所

佐藤岩次郎
平町字鎌田町

上田外科醫院
平町南町 (電話二二九番)

人間と猿とは互によく似てゐるところから、猿に人の真似をさせて、舞はしたり、芝居をさせたりすること、地の味より





猿の人間に關する話題のかずく

一心に物を探すことを、蚤取眼で探すと云ひますが、此の蚤取眼のことは「猿の蚤取眼」といふこと...

織田 モーターサイクル 商店 平町南町(電話五三三番)

木幡 火銃砲店 原町本町二丁目 綿屋吳服店 小高町 電話七番 大島鋸工場 大島守治

豊間大敷網事務所 江名漁業組合 賀正 櫻井忠陸 謹賀新年

謹賀新年

平町會議員(同不序順)

- 佐藤岩次郎 荒川淺次郎 武田元之助 根本品藏 猪狩庄平 石山治三郎 馬目雅治 永山富廣 千葉彦治 荒川恒次郎 青沼鋒太郎 國府田直良 馬目武之助 櫻井清

石城郡病院新年

- 上田外科醫院 川井内科診療所 増田耳鼻喉科醫院 小林醫院 前田醫院 片岡醫院 森合齒科醫院 久保田醫院 難波醫院 吉田眼科醫院

原齒科醫院 平町田町(電話四七五番) 磐城時報社 加納活版所

謹賀新年

縣會議員 太田秋之助 石神村	縣會議員 佐藤政藏 原町	縣會議員 猪狩雄祐 大野村	署長 遠藤英之助 原町營林署	署長 高垣百輔 原町土木監督所	村會議員 池田長八 眞野村信用組合長	村會議員 山田茂治 八澤村干拓組合	村會議員 佐藤要次郎 石神村深野	村會議員 鎌倉敏藏 石神村馬場	在郷軍人分會長 鈴木清助 村會議員	村會議員 星源太郎 鮭川組合長	仙臺煙草專賣局書記 阿部文二 出張所長														
原町郵便局長 岩崎	原町郵便局長 折笠龍介	大原郵便局長 佐々木時路	高野郵便局長 西哲治	小高郵便局長 紺野鬼子	鹿島郵便局長 若松運藏	日立木郵便局長 大谷龜次郎	磯部郵便局長 義利治	飯豊郵便局長 青田所左門	縣立相馬農藝學校長 佐藤弘毅	原町高等實科女學校長 佐伯忠雄	原町尋常小學校長 大越寅市	原町高等小學校長 小林徳次郎	石神第一小學校長 鈴木永名次	石神第二小學校長 渡部光喜	高平村小學校長 水戸正雄	太田村小學校長 飯野治郎	大野村小學校長 佐々木清人	金房小學校長 佐藤信義	小高小學校長 佐藤留之助	小高實業專修學校長 倉澤初次	折笠重雄				
鹿島小學校長 大橋彌太郎	八澤小學校長 豊田秀雄	眞野小學校長 太田宗慈	上眞野小學校長 戸浪忠人	日立木小學校長 荒門訂	磯部小學校長 荒馬春治	飯豊小學校長 荒馬清森	八幡小學校長 星清	山上小學校長 齋藤鐵三郎	原町警察署管内消防組頭 堀川一正	石神村 大田秋之助	高平村 高江安藏	太田村 阿部清	大野村 伊賀助太郎	金房村 山澤久助	福浦村 鈴木克衛	眞野村 但野修清	原町警察署管内消防組頭 凌時幹	小高驛長 陰山俊衛	驛城太田 仁志好助	鹿島驛長 荒木三郎	鹿島町消防組頭 佐藤憲助	八澤村消防組頭 松本進	上眞野村消防組頭 伏見直重	原町耕地整理係 阿部利助	
菊地伊三郎	田原口英藏	男澤芳三郎	田原口三男	星原新	原町役場 門馬貞貞	外 澁谷數衛	石神村役場 大和田長治郎	助役 池田清孝	助役 羽根田權	高平村役場 村田忠三	助役 伏見金秀	助役 門馬常治郎	大野村役場 今野義意	助役 伏見清身	助役 木幡春治	太田村役場 岡田庄治郎	助役 大浦寛治	助役 木幡吉治郎	小高町役場 三島庄藏	助役 紺野數衛	助役 小林久助				
金房村役場 草野利八	助役 飯崎義雄	助役 齋藤五郎	福浦村役場 安部一衛	助役 山澤久助	助役 杉忠重	眞野村役場 牛渡惣	助役 桑折義重	鹿島町役場 星寅五郎	助役 中野忠助	助役 渡邊治助	上眞野村役場 草野喜代治	助役 佐藤勝兵衛	助役 梅田喜重	八澤村役場 高野與祖次郎	助役 藏野治三郎	助役 郡卯左衛門	日立木村役場 丸山古平	助役 池田辰己	磯部村役場 島卯兵衛	助役 瀧澤作治郎	飯豊村役場 荒萬太郎	助役 佐藤吉光	助役 飯塚幾治郎		
八幡村役場 今野善治	助役 杉本巳之助	縣社太田神社 佐藤左門	縣社太田神社 武内清賢	縣社小高神社 相馬胤良	縣社中村神社 田代千信	縣社中村神社 田代千信	縣社老澤稻荷神社 佐藤政傳	縣社中村神社 田代千信	縣社中村神社 田代千信	縣社中村神社 田代千信	縣社中村神社 田代千信	縣社中村神社 田代千信	縣社中村神社 田代千信	縣社中村神社 田代千信	縣社中村神社 田代千信	縣社中村神社 田代千信	縣社中村神社 田代千信	縣社中村神社 田代千信	縣社中村神社 田代千信	縣社中村神社 田代千信	縣社中村神社 田代千信	縣社中村神社 田代千信	縣社中村神社 田代千信	縣社中村神社 田代千信	縣社中村神社 田代千信
上眞野村 安養寺	株式會社常磐銀行 小高出張所	原町 松本酒造店	材木商 星屋林治	繁田肥料製造所 大橋友成	成瀨銀一 成瀨銀一	七十七銀行原町出張所 半谷守一	高野電力會社原町出張所 伊藤勇治	原町驛前 丸屋旅館	原町驛前 中野屋旅館	小高町 遠藤さよ	請戸川水電株式會社 小高支社	原町紡織株式會社 原町支店	警務主任 大高進	福島電燈株式會社 原町營業所	株式會社常磐銀行 原町支店	合名會社 原町銀行	相馬郡福浦村老澤 宮西種禽場	九川興業事務所 布川實	原町 高野自動車部	原町 手袋、北長野、小池、小山田、富澤、中村、御山、宮澤、八幡、清水、中村、新橋、車川、鹿島町					

原町材木商會
原町藝妓屋

眼科、内科、外科
經驗をなげめぐり
奇方破雲丹
許調劑所 **壽生堂**
堂主 折久保 菊
福浦村女校

小兒カンの少藥
消食散 名カゲの藥
本舖 **木幡製藥舖**
金房村飯崎

妙見散、妙見膏
諸處方調劑藥局
林藥品商會
小高町 電話五三番

高島式馬耕
機改良農一式
製造販賣所
板倉鐵工場
填主 板倉 主
小高町

西洋料理 出前迅速
朝鮮料理
原町太之助町
カフエー 文化食堂
電話二二二番

原町、手袋、北長野、小池、小山田、富澤、中村、御山、宮澤、八幡、清水、中村、新橋、車川、鹿島町
高野自動車部
鹿島町 電話三三番

丸はん家具製作所

御料理 末廣亭

縣會議員 野崎滿藏

謹賀新年

和洋酒 白菊
廣瀨支店
問屋 平田町電話五四番

三三三屋肉店
電話三三三番

伊勢屋商店
電話四五番

鶴屋旅館
電話一二二番

和久井屋
電話四〇五番

濟淋水野藥局
電話三三七番

勇屋履物店
電話三三七番

盛多屋商店
電話三五三番

諸橋吳服店
電話五〇番

藤寅
電話一四一番

坂本紙店
電話一八番

小野屋藥店
電話一四四番

平銃砲火藥店
平五丁目

山野邊藥局
平五丁目 電話六二五番

大黒屋洋品店
平三丁目 電話一六六番

瀨尾藥店
平三丁目 電話五五三番

藤市蒲鉾店
平二丁目 電話三〇五番

平館
松田卯次郎

レストラン・サロン
電話三五二番

杉山今朝吉
平三丁目

ライト寫眞館
平三丁目 電話五三五番

中野洋品店
平二丁目 電話五三三番

吉村製綿店
平二丁目 電話二五七番

越の家
平二丁目 電話三三〇番

菓子店 マツモトヤ
平四丁目 電話二二四番

齋藤寫眞館
平三丁目

岡山寫眞館
平南町 電話六一五番

中島寫眞館
平田町

桐原英純
平二丁目

鍋嘉酒店
平二丁目 電話四三三番

織田材木店
平五丁目 電話一〇〇番

百澤商店
平五丁目

保田定吉
平五丁目

荒川善太郎
平五丁目

大浦村々會議員
渡邊周平

作山甚之助
酒井良平

片寄左京

愛川軍治

根本權次郎

吉田久之進

根井久之進

酒井久之進

早川鐵造

箱崎熊八

坂本嘉兵衛
岩手縣宮古町

菊地二三
大浦農業講師

醫師齒科醫組合
四倉青年團長

菊地正一
四倉青年團長

鈴木佐四郎
大野村青年團長

柴田正則
大浦村青年團長

早川桂子
大倉裁縫女學校校長

赤塚カクヨ
職員

松本健
常盤銀行四倉出張所

鱗屋合名會社
味噌・醬油製造元
四倉新町 電話一〇八

菅波千之助
助役 遠藤安次郎

大浦信用組合
石城郡大浦村

五十嵐新平
草野村青年團長

草野村青年團長
玉山礦泉旅館

石屋草野又藏
大野村玉山

江口清
四倉驛前

高信一雄
四倉小學校

平屋吳服店
四倉本町 電話五九

渡邊金治
味噌造 醬油造
電話四五

高木石藏
味噌造 醬油造
大浦村 電話二二六

二階堂寬
四倉驛長

木村健助
酸素熔接所
四倉新町

吉田純祐
長隆寺 住職
浦村大長友

中野トク
產婆代議員
四倉仲町

高崎義男
大浦村役場

寺岡章商店
雜貨商
四倉本町

四倉運送株式會社
四倉同業
電話二・十番

四倉變電所
東部電力株式會社
營業所

波多野商店
瀨戸物 御銘茶
四倉本町

志賀良
小高町幼稚園

木良醫院
院長 相良純次郎

大樂寫眞館
四倉町諏訪神社前

水野屋本店
四倉本町 電話七四

新妻藥店
四倉仲町 電話九

深谷藥舖
四倉新町 電話二八

四倉藝妓屋
四倉町劇場

海盛座
四倉町劇場

鈴木長壽
草野村

木村醫院
石城郡大野村山田

荒川庸幸
大野村第二青年團長

大谷伊佐吉

小林洋品店
四倉仲町

新妻自動車部
貨物專問(許屋號)
電話六八

鈴木克哉
四倉仲町

長谷川久
四倉町字原田

海盛館
四倉町 電話五

製粗一品料理 一心
四倉仲町 電話七四

四倉信用組合
四倉新町

宮澤光朝
四倉消防組第三部

長谷川好男
柳沼三郎

渡邊熊藏
小湊平次郎

紙屋吳服店
淺草屋洗濯店
電話七五

四倉料理屋 健組合
產婆代議員

鈴木シマ
四倉仲町

高木勝太郎
玉山礦泉旅館
藤屋 在郷軍人四倉分會會長

木田雅風
四倉驛前

吉田油槽所
四倉仲町

四倉藥局
代理 古川彌衛門
太田政市

鈴木牛乳舎
四倉町字原田

佐藤仲商店
味噌造 醬油造
電話四一

木村酒店
銘酒造 酒之出元
大浦村細谷

土木建築請負業
相馬郡石神村
電話原町四九番

綠樹園
原町東一番丁(電話二二七)

渡邊外科醫院
院主 渡邊新

小室吉見
製皮加工品
原町東一番丁(電話三三三)

高井製絲場
電話一三番

原町支店
電話七〇

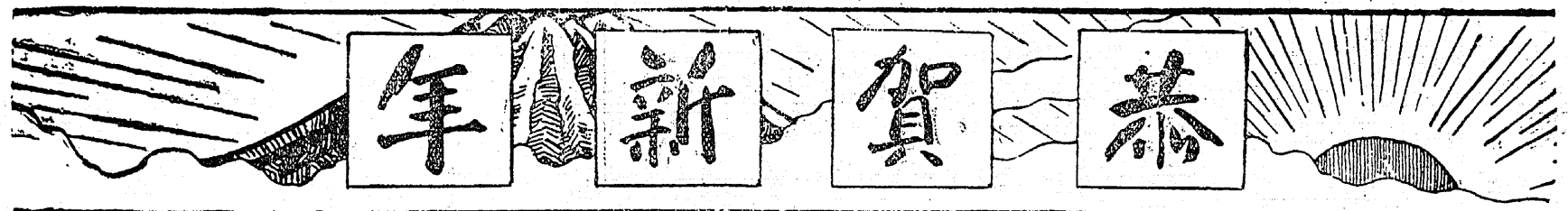
牛乳搾乳業
營養會 式三三三

石城郡町村長會

猪又醫院
院主 猪又義信

道乃湯
あた、よる
藥湯補温藥湯
青田三男

以前は正月十五日、十六日は、
奉公人がお盆と合せて一年二度
の公休日であった。語源「田舎
へ歸省する」の意であらうか。
(完)



<p>磐城炭礦株式會社礦業所</p>	<p>入山採炭株式會社坑務所</p>	<p>古河炭礦好間鑛業所</p>	<p>小田炭礦萩原鑛業部 萩原申八</p>	<p>隅田川炭礦礦主 好間元山炭礦 小田吉治 津川炭礦</p>	<p>平製氷株式會社 社長 加納五郎</p>	<p>植田水力電氣株式會社 社長 金成通</p>
<p>衆議院議員 木村清治</p>	<p>衆議院議員 比佐昌平</p>	<p>縣會議員 田子健吉</p>	<p>平町長 伏見彥衛</p>	<p>小野晋平</p>	<p>古川傳一</p>	<p>錦消防組頭 山崎登</p>
<p>難波醫院 醫學博士 難波睦 平町大可 (電話五〇二番)</p>	<p>縣會議員 井上茂作</p>	<p>縣會議員 萩原義雄</p>	<p>阿部政右衛門</p>	<p>平町字二丁目 (電話十六番) 清關內油店 關內正一</p>	<p>平町字紺屋町 旅館 住吉屋本店 御料理 青天目源一郎</p>	<p>石城郡飯野村 伊藤淺之助</p>

